

# ピロリ菌とは 感染経路など



ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ H.Pylori)は、胃がみや胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因となります。ピロリ菌が感染すると胃炎を発症し、それに環境因子、食事因子などが加味され慢性胃炎に進展し、さらに胃・十二指腸潰瘍や胃がんの発生地となります。

ピロリ菌の感染は胃酸の分泌が少なく免疫力の弱い5歳までに成立します。現代の日本においては感染経路はおもに親などからの「口-口」感染(たとえば口移し)が主体と考えられています。こどもがピロリ菌陽性の場合、両親(ないし祖父母)もピロリ菌陽性である可能性があります。

衛生環境の改善もあり日本の年代ごとのピロリ菌保有者の割合は低下しています。



広島大学のグループの報告では胃がんのうち99.5%はピロリ菌陽性の胃から発症しています。ピロリ菌のない胃から胃がんの発症する可能性はきわめて少ないということです。

ピロリ菌の除菌をすることで胃がんの発生を抑制できることが報告されています(Fukase K et al.Lancet 2008;372:392-397)。またなるべく胃粘膜の萎縮が進行しない状態(より若年)で除菌することで将来の胃がん発生が予防できます。



胃透視検査でピロリ菌に感染していない胃と感染している(またはしてて)胃がわかります。医療生協かわち野の胃がん検診(胃透視検査)では「慢性胃炎」と記載されている場合はピロリ菌の感染(または既往)の可能性があるとということです。

## 1. 胃透視検査(胃がん検診)を受けた方

「異常なし」の所見の場合、ピロリ菌陽性の可能性が高いです。

ピロリ菌がない

「慢性胃炎」の所見の場合、ピロリ菌陽性の可能性があります。ピロリ検査をおすすめします。また内視鏡検査を行いピロリ陽性の場合除菌療法を行ってもいいと思われます。

ピロリ菌がいる

ピロリ菌の除菌



## 2. 便ピロリ検査 (ドックなど他の検診と併用)

陽性の場合にはピロリ菌が陽性ですので除菌療法をおすすめします。

## 3. ピロリ検診 (他の検診と併用しない場合)

検査方法 便ピロリ抗原検査 専用容器に便を採取する

費用 2,000円(組合員以外 3,000円)



- \* ピロリ菌の除菌療法は胃カメラ検査を行うことが保険診療で実施する場合必須になっています。とくに胃透視検査で異常を指摘された方、50歳以上の方は胃がんの鑑別の必要性からも胃カメラ検査をすすめます。
- \* 胃カメラ検査をしない場合は除菌療法は自費診療となります。